

『旧約聖書』の思想

2018年追試

問5 永遠の存在に関する教えの説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 15

- ① ユダヤ教によれば、神には裁きの神としての一面があり、永遠の神と契約を結んだ民族に対して、裁きに基づいて罰と救済とがもたらされる。
- ② キリスト教では、永遠の神において、父なる神、子なるキリスト、自然の光という三者が一つのものであるという教義が説かれている。
- ③ バラモン教によれば、個人の本質であるブラフマンと永遠不滅の根本原理であるアートマンとが合一することで、輪廻の苦から解放される。
- ④ イスラーム教では、永遠の神アッラーにのみ神性が認められ、カーバ神殿を例外としてその他の場所での偶像崇拝が禁止されている。

問8 次のア～ウは、ユダヤ教やキリスト教における希望のあり方についての記述である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 18

- ア イエスの活動以前から、ユダヤ教のなかでは、イスラエル民族を苦難から救う救世主(メシア)を待ち望む信仰が存在していた。
- イ 初期のキリスト教会では、刑死したイエスがこの世の終わりにはじめて復活するとされ、そのことに対する希望に基づく信仰が生まれた。
- ウ アウグスティヌスは、パウロによって基礎づけられた信仰・希望・愛の三元徳を、ギリシアの四元徳と等しい価値をもつものと考えた。

- ① ア 正    イ 正    ウ 誤
- ② ア 正    イ 誤    ウ 正
- ③ ア 正    イ 誤    ウ 誤
- ④ ア 誤    イ 正    ウ 正

⑤ ア 誤    イ 正    ウ 誤

⑥ ア 誤    イ 誤    ウ 正

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	15	①	2
第 2 問	問 8	18	③	3

2017 年本試

問 1 金品の所有や利得の追求についての教えや思想の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

11
----

- ① ソクラテスは、魂を優れたものにするよう配慮しさえすれば、金銭をできるだけ多く自分のものにしようとする欲求は自然と満たされる、という福德一致の考えを示した。
- ② イスラーム教では、あらゆるものは究極的には神の所有物とされるが、人にはそれを用いる権利が与えられており、貸した金から利子を得ることも広く認められていた。
- ③ ユダヤ教では、神からモーセに授けられた十戒を遵守することが求められ、その十戒のなかには、盗みを禁じる規定や、隣人の家を欲することを禁じる規定があった。
- ④ 仏教では、所有欲が執着として否定され、欲しいものが得られないという苦悩は、所有欲があるから生じるのであり、執着を絶つためには徹底した苦行が必要であるとされた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	11	③	3

2016 年本試

問 6 律法の説明として**適当でないもの**を，次の①～④のうちから一つ選べ。 16

- ① イスラエル人は，律法を守れば祝福が与えられ，律法を破れば裁きの神としてのヤハウェに厳しく罰せられるとされている。
- ② 律法の中心をなす十戒は，神の絶対性に関わる宗教的な規定(義務)と人間のあり方に関わる道徳的な規定(義務)から成り立っている。
- ③ イスラエル人は，エジプトに移り住む際の心構えとして神から与えられた律法を，神と民との間に結ばれた契約の<sup>しるし</sup>徴とみなしている。
- ④ 律法に従って神の恩恵に応える限り，イスラエル人は神に選ばれた特別な民として，神から民族の繁栄を約束されている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	16	③	2

2015 年本試

問 4 次の文章は、言葉を通じて神を求めたキリスト教の伝統について述べたものである。□ a □～□ c □に入れる語句の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 □ 14 □

祭祀<sup>さいし</sup>や儀礼を通じて神と交わろうとする自然的宗教に対して、キリスト教では、神は人間に言葉で語るというユダヤ教の考え方が継承され、言葉を通じての関わりが重視された。例えば、「出エジプト記」で神が預言者に与えたとされる□ a □は、言葉で表されたものであった。さらに、「ヨハネによる福音書」の冒頭には「初めに言葉(ロゴス)があった。言葉は神とともにあった。言葉は神であった」と記されている。

その一方で、聖書の言葉は多様な解釈にさらされ、異教徒から攻撃されたり、異端者を生んだりすることになった。彼らと論争し、キリスト教の教義を確立するうえで大きく寄与したのは、□ b □である。その自伝的著書『告白』には、「取れ、読め」という子どもの声をきっかけに、「主イエス・キリストを身にまといなさい」という聖書の一節を読んで回心したと記されている。彼にとって、聖書の言葉を解釈することは神を理解する試みであり、罪深き自己を告白することは罪からの救いを可能とする□ c □を語ることであった。

- |   |   |           |   |          |   |       |
|---|---|-----------|---|----------|---|-------|
| ① | a | 山上の説教(垂訓) | b | アウグスティヌス | c | 理法の展開 |
| ② | a | 山上の説教(垂訓) | b | アウグスティヌス | c | 神の恩寵  |
| ③ | a | 山上の説教(垂訓) | b | パウロ      | c | 理法の展開 |
| ④ | a | 山上の説教(垂訓) | b | パウロ      | c | 神の恩寵  |
| ⑤ | a | 十戒        | b | アウグスティヌス | c | 理法の展開 |
| ⑥ | a | 十戒        | b | アウグスティヌス | c | 神の恩寵  |
| ⑦ | a | 十戒        | b | パウロ      | c | 理法の展開 |
| ⑧ | a | 十戒        | b | パウロ      | c | 神の恩寵  |

問5 次のア～ウは、様々な聖典の説明である。その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～⑧のうちから一つ選べ。 15

ア 新約聖書は、従来の律法に代わって、人類に無償の愛を注ぐ神への応答として「神を愛し、隣人を愛せ」という新たな愛の掟<sup>おきて</sup>を教え、その掟を全うすることによって罪を贖<sup>あがな</sup>う者は救われるという、福音を説いている。

イ ユダヤ教の聖典は、世界の創造者である神の啓示の書とされる。神が与えた律法を守ることで救いと繁栄が約束されるという契約の思想が表され、神と契約を結んだ民であるイスラエル人の歴史などが書かれている。

ウ クルアーン(コーラン)は、預言者ムハンマドに下された神の啓示を記した書とされ、聖職者と一般信徒がそれぞれに実践すべき規律を教えており、シャリーア(イスラーム法)の典拠となっている。

- ① ア 正    イ 正    ウ 正
- ② ア 正    イ 正    ウ 誤
- ③ ア 正    イ 誤    ウ 正
- ④ ア 正    イ 誤    ウ 誤
- ⑤ ア 誤    イ 正    ウ 正
- ⑥ ア 誤    イ 正    ウ 誤
- ⑦ ア 誤    イ 誤    ウ 正
- ⑧ ア 誤    イ 誤    ウ 誤

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第2問	問4	14	⑥	3
第2問	問5	15	⑥	3

2013 年追試

問 4 様々な宗教における神の説明として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

15
----

- ① 神道では、神々は、死者の怨霊<sup>おんりょう</sup>とは異なり、人々に災いや不幸を与えることとはなく、自然の豊穰<sup>ほうじょう</sup>な恵みを与えるとされている。
- ② ユダヤ教では、神によって与えられた戒律を基に整えられた律法を遵守することで、神に保護され、将来、神の救済を得るとされている。
- ③ ヒンドゥー教では、バラモン教から引き継がれた唯一神が信仰され、神は宇宙万物の本体であり絶対的な原理であるとされている。
- ④ イスラーム教では、この世を創造し、人間に慈<sup>いつく</sup>しみを与える神が、この世の終末において、すべての人間を天国に迎え入れるとされている。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	15	②	3

2010 年追試

問 5 ユダヤ教の選民思想を表す記述として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

9
---

- ① 厳しい自然に立ち向かうなかで育<sup>はぐく</sup>まれた信仰であり，世界の創造主が現世に遣わした神の子が，彼らを選びその繁栄と救済を約束した。
- ② 異民族との闘争のなかで育<sup>はぐく</sup>まれた信仰であり，彼らの血統が優れているがゆえに，人格を超えた神が，彼らを永遠の救いに導く約束をした。
- ③ 異民族からの圧迫などの苦難のなかで育<sup>はぐく</sup>まれた信仰であり，唯一の絶対神である人格神が，彼らを選びその繁栄と救済を約束した。
- ④ 厳しい自然に翻<sup>ほんろう</sup>弄されるなかで育<sup>はぐく</sup>まれた信仰であり，人格を超えた神である宇宙の根本原理を理解できる彼らだけに，永遠の救いが約束された。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 5	9	③	3

2009 年本試

問 4 次の文章は旧約聖書の言葉「復讐するは我にあり」をパウロが解説したものである。これを読んで、パウロが理解したこの旧約聖書の言葉の意味として最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 8

だれに対しても悪に悪を返さず、すべての人の前で良いことを行うように心がけなさい。できれば、せめてあなたがたは、すべての人と平和に暮らしなさい。……次のように書いてあります。『復讐するは我にあり。……』と主は言われる。「むしろ、あなたの敵が飢えていたら食べさせ、渴いていたら飲ませなさい。そうすれば、燃える炭火を彼の頭に積むことになる」。悪に負けないで、善をもって悪に勝ちなさい。

(新約聖書「ローマ人への手紙」)

- ① 復讐してもよいのは、正当な理由のある場合だけである。
- ② 復讐すれば、後で必ず自らも復讐される。
- ③ 自ら復讐することも、他人に復讐を依頼することも禁じられる。
- ④ 自ら復讐せず、神に任せなければならない。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	8	④	3

2008 年本試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。

を説く旧約聖書では、敬虔<sup>けいけん</sup>で潔白な人物であるヨブが、ヤハウエの意志に由来する数々の理不尽な試練に遭遇し、苦悩する。しかしそれでも信仰を捨てなかったヨブは、最後に神からの祝福を受けるに至るのである。

- ① メシアの復活                      ② 使徒の福音  
③ 神との契約                        ④ 山上の垂訓(説教)

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 1	4	③	2

2007 年本試

問 6 旧約聖書に関して、この聖書を基に展開していったキリスト教における神と人間についての記述として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

10

- ① 人間は、神の定めた安息日や食事の規定などの戒めを厳しく遵守する律法主義によってのみ、神の怒りをなだめることができる。
- ② 神は万物と等しくあり、万物の中に入り込んでいるので、人間の喜怒哀楽の感情も神の現れである。
- ③ 神の慈悲に促された人間は、他の人々を救済することを誓い、一人でも救済されない間は自ら救われることはないとは決意している。
- ④ 人間は神による被造物であり、愛の神が遣わした救世主（メシア）を信じることによって救済される。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	10	④	3

2006 年本試

問 4 旧約聖書に登場する宗教的指導者モーセについて述べたものとして最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。 

8
---

- ① 王の宮殿で育てられたが，荒野で啓示を受け，奴隷となっていた同胞を約束の地へと向かわせ，神から授けられた掟<sup>おきて</sup>を人々に示した。
- ② 異民族による支配は，多神教の影響による宗教的な堕落や貧者を虐げる社会的不正に対する神の罰だとして，神の裁きと救済を説いた。
- ③ 山の洞窟<sup>どうくつ</sup>で神から啓示を受け，預言者として，礼拝や喜捨などの宗教的義務を果たし敬虔<sup>けいけん</sup>な信仰生活を送るべきことを説いた。
- ④ 王子として生まれ育ったが，死や病気に直面する人間の苦しみについて思い悩み，王家を出て真理に達し，人々にそれを示した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 4	8	①	3

2006 年追試

問 6 ユダヤ教の特徴として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

9

- ① 律法と預言者の言葉を通じて，超越的神が歴史において自民族に関わり続けていることを確信し，メシアによる救済を待望する。
- ② 全知・全能で唯一絶対である神の子の意志や命令に服従することを教えの中心とし，民族や国家を超えた信仰共同体を形成する。
- ③ 狭い意味での宗教というよりも，ユダヤ共同体の生活様式全般であり，父・子・聖霊の一体性を奥義として，人格神を礼拝する。
- ④ 律法よりも，人間社会の矛盾に対して神から与えられた預言者の言葉を遵守する生活の方が，救済のためには不可欠であるとする。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 2 問	問 6	9	①	3

2004 年本試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。

ユダヤ教やイスラームにおいては、神の言葉に従うことが善であると言われる。聖書やクルアーンなどはそれぞれ神の言葉であり、これに背くことが悪とみなされる。ただその従順さは、何か規則に縛られたものというより、神に対する人格的応答であることを見逃してはならない。それゆえイエス・キリストは、ユダヤ教内でこの人格的応答の視点が後退し、いわゆる  が台頭したとき、これを徹底的に批判した。彼は人格的応答として神への愛を説き、これをもとに隣人への愛を説いた。イエスの説く隣人への愛を広く利他性と捉えるならば、これは大乘仏教の慈悲にも通じる思想と言える。

- ① 法治主義                      ② 福音主義  
③ 理想主義                      ④ 律法主義

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	2	④	2

2004 年追試

問 4 旧約聖書に関する記述として**適当でないもの**を、次の①～④のうちから一つ  
選べ。 

5
---

- ① 世界の創造者である神ヤハウェへの信仰を基礎としている。『創世記』や『出エジプト記』などから成り、様々な形で神ヤハウェによる人類全体への平等な愛を説いていることが特徴である。
- ② 『創世記』や『出エジプト記』といった多くの歴史書、預言の書などから成り立っている。ヘブライ人のエジプト寄留と脱出、またモーセの十戒などの話は、この『創世記』や『出エジプト記』に記されている。
- ③ ユダヤ教およびキリスト教の聖典とみなされている。イスラエルの民だけが神ヤハウェから使命を帯びて選ばれたとする選民思想や、神の言葉としての律法を遵守しなければならないとする考え方がその特徴である。
- ④ 主にヘブライ語で書かれており、旧約とは本来、「<sup>ふる</sup>古い契約」という意味である。ここで「契約」とは、神ヤハウェとイスラエルの民とのモーセを通じた契約を意味している。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 4	5	①	3

2002 年本試

問 1 文章中の  に入れるのに最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ  
選べ。

既存の社会的権威との対決は、古代ギリシャ以外の文化圏においても広く確認することができる。たとえば、アーリア人が支配していた北インドで設立された仏教教団においては、民族の枠組みを超えて世界宗教へと向かう動きが見られる。また、古代イスラエルの宗教思想においても、イザヤやエレミアといった  は、バビロン捕囚などの民族存亡の危機に直面して、伝統的な民族宗教の価値観を超える、新しい宗教思想の担い手となった。

① 知 者

② 預言者

③ 教 父

④ 殉教者

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 1 問	問 1	2	②	2